

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば



「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」
ヨハネによる福音書3章16aより

きょうかいがっこうれいはい

教会学校礼拝プログラム

2025年 9月28日

ぜん そう
前 奏

*賛 美

いの
お祈り

「しゅイエスのみちを」 こどもさんびか改訂版120

天の父なる神様、今日も教会へと招いてくださり、また、ラインで礼拝をささげられる恵みに感謝します。神様、あなたがイエス様を世に遣わしてくださったことで、私たちは生きる道を示されました。悩み多いこの世にあって、希望を与え、友のために祈る心を導いてください。この祈りを主イエス・キリストの御名によってささげます。アーメン。

せい しょ
聖 書

ヨハネによる福音書14章1-7節【日本聖書協会 共同訳】 新約聖書 p.192

こうどくしへん
交読詩編
説 教

交読詩編 (11) 詩編85 より--- こどもさんびか p.205

イエス様は「道」、真「理」、命、ってどういうこと？ 私は？

0. 「暗唱聖句」を口に出してみましよう！⇒その意味することを考えます。⇒聖書へ拡がる。
 1. 1節のイエス様の弟子たちに言った言葉「心を騒がせてはならない」に注目します。
 2. 私たちは「心を騒がせる」ことがありますか？
 3. イエス様は「心を騒がせる」ことはあったのでしょうか？
- *イエス様の励まし「立て、さあ、ここから出かけよう。」
⇒友を「支え、友のために「祈る、ことによって、イエス様からの勇気が得られるのです。

あんしょうせいぐ
暗唱聖句

イエスは言われた。「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことが出来ない。」
ヨハネによる福音書14章6節

もくそう
黙想タイム

*賛 美

「わがゆくみち」 讃美歌 21-463

けんきん かんしゃ
献金と感謝のお祈り 24-1

*主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いだしたまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

おし
お知らせ

- ・主日礼拝前半の「子ども説教」への出席をお待ちしています。
- ・教会に来られない時は、LINEを利用して家庭礼拝をおさげしましょう。
- ・次週の説教を楽しみにしてください。・次週は、10月のお誕生日会です。

*賛 美

36 いまでかけよう

*祝 福

八木 浩史 牧師

*後 奏

- 1 「心^{こころ}を騒^{さわ}がせてはならない。神^{かみ}を信じ、また私^{わたし}を信じなさい。
- 2 私^{わたし}の父^{ちち}の家^{いえ}には住^すまいがたくさんある。もしなければ、私^{わたし}はそう言^いっておいたであろう。あな^あなたがたのために場所^{ばしょ}を用意^{ようい}しに行く^いのだ。
- 3 行^いってあなた方^{がた}のために場所^{ばしょ}を用意^{ようい}したら、戻^{もど}ってきて、あなた^{あなた}がたを私^{わたし}のもと^{もと}に迎^{むか}える。こうして私^{わたし}のいる所^{ところ}に、あなた^{あなた}がたもいることになる。
- 4 私^{わたし}がどこへ行く^いのか、その道^{みち}をあなた^{あなた}がたは知^しっている。」
- 5 トマス^いが言^いった。「主^{しゅ}よ、どこへ行^いかれるのか、私^{わたし}たちにはわ^わかりません。どうして、その道^{みち}が分^わかるのでしょ^う。」
- 6 イエス^いは言^いわれた。「私^{わたし}は道^{みち}であり、真^{しん}理^りであり、命^{いのち}である。私^{わたし}を通^{とお}らなければ、誰^{だれ}も父^{ちち}のもと^{もと}に行^いくことが出来^でない。
- 7 あなた^{あなた}がたが私^{わたし}を知^しっているなら、私^{わたし}の父^{ちち}をも知^しるであらう。いや、今^{いま}、あなた^{あなた}がたは父^{ちち}を知^しっており、またすでに父^{ちち}を見^みたのだ。」

<さんび>

しゅイエスのみちを

改訂こどもさんびか120

しゅイエスのみちを あるこうまっすぐに
しんりのみちを あるこうまよわずに
しゅイエスはみちです しんりですいのちです
いのちのみちを あるこうおわりまで



わがゆくみち

讃美歌21-463

1. わがゆくみち いついかに
なるべきかは つゆしらねど
主はみこころ なしたまわん

(くりかえし)
そなえたもう 主のみちを
ふみてゆかん ひとすじに

2. わがこころよ つよくあれ
ひとばかりは うはうつれど
主はみこころ なしたまわん
(くりかえし)

3. あらうみも うちひらき
すなはらにも マナをふらせ
主はみこころ なしたまわん
(くりかえし)



- 1章1節「はじめに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。」
- 3章16節「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」
- 8章12節「イエスは再び言われた。「私は世の光である。私に従う者は闇の中を歩まず、命の光を持つ。」」
- 10章11節「私は良い羊飼である。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」
- 12章24節「よくよく言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」
- 13章34節「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」
- 14章6節「イエスは言われた。「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことが出来ない。」
- 15章5節「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」